

小学校・中学校・高等学校におけるキャリア・パスポート活用の実際と 進路指導・キャリア教育との関連

松山 康成¹

(2022 年 1 月 10 日 受理)

How to Use Career Passport and In Relation to the Career Guidance / Career Education

Yasunari MATSUYAMA

Abstract: The purpose of this study is 1) To clarify the reality of "Career passport" in elementary School, junior high school, and high school. 2) To make recommendations on how to effectively use your "Career passport". 3) To consider the relationship between "Career passport" and Student guidance / Career education. As a result of the analysis, the Carrier passport was characterized by systematicity, simplification, and locality.

Key words: Career Passport, Career Guidance, Career Education

キーワード: キャリア・パスポート, 進路指導, キャリア教育

問題と目的

子どもたちの将来を取り巻く状況は、少子高齢化社会の到来や産業構造の変化、また職業観や勤労観の変化に基づく雇用の多様化などによって不透明なものとなっている。また子どもたちの生活においても、物質的な豊かさや生活の利便性の向上、都市化の進展に伴って大きく変容している（文部科学省, 2005）。このような状況の中で、学校教育では中学校・高等学校における進路指導だけでなく、小学校から体系的に取り組みされるキャリア教育が行われてきた（西村, 2015）。

「キャリア」とは、「人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見出していく連なりや積み重ね」であり、キャリア教育は、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤と能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と定義される（文部科学省, 2011a）。また進路指導は「生徒が自らの生き方を考え、将来に対する目的意識を持ち、自らの意志と責任で進路を選択決定する能力・態度を身に付けることができるよう、指導・援助すること」と定義される（文部科学省, 2004）。わが国においてキャリア教育という言葉は、1999 年 12 月の中央教育審議会答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について（文部科学省, 1999）」の中で初めて用いられた。それから約 20 年の間、学校教育においてキャリア教育の充実が図られてきた。例えば、2004 年の「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書（文部科学省, 2004）」において、小学校、中学校、高等学校の各学校では活動相互の関連性や学習指導要領等の系統性に留意しながら、発達段階に応じた創意工夫ある教育活動を展開していくことが必要であると示している。そういった背景から、児童生徒が直接働く人と接することや、働く上で必要な知識や技術・技能に触れるなどの体験を通して、学ぶことの意義や働くことの意義を理解し、生きることの尊さを実感することを目的として、小学校では職場見学、中学校では職場体験、高等学校ではインターンシップなどが実施されている（文部科学省, 2005）。

¹ 香里ヌヴェール学院小学校／広島大学大学院教育学研究科

現行の学習指導要領（文部科学省, 2018a; 2018b; 2018c）では、「児童生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。」と示されている。さらに中学校学習指導要領では、「その中で、生徒が自らの生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、組織的かつ計画的な進路指導を行うこと。」、高等学校学習指導要領では「その中で、生徒が自己の在り方や生き方を考え、主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、組織的かつ計画的な進路指導を行うこと。」とされ、小学校・中学校・高等学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の重要性が明示されている。また、現行の学習指導要領で示されている「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の方向性として、日々の学習指導の中で学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持つことの重要性が指摘されている（長田, 2018）。

このように、キャリア教育の要となる特別活動においては、学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行う重要性が指摘されており、その際、児童生徒が活動を記録し蓄積する教材等を活用することと定められている（文部科学省, 2018d; 文部科学省, 2018e; 文部科学省, 2018f）。そして、生徒が活動を記録し蓄積する教材として、学校現場ではキャリア・パスポートが導入され、文部科学省はその様式例と指導上の留意点を示している（文部科学省, 2019a）。

キャリア・パスポートとは、児童生徒が小学校から高等学校までのキャリア教育に関わる諸活動について、特別活動の学級活動及びホームルーム活動を中心として、各教科等と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるよう工夫されたポートフォリオのことであり、その記述や自己評価の指導にあたっては、教師が対話的に関わり、児童生徒一人一人の目標修正などの改善を支援し、個性を伸ばす指導へとつながりながら、学校、家庭及び地域における学びを自己のキャリア形成に生かそうとする態度を養うよう努めなければならないとされる（文部科学省, 2019b）。

キャリア・パスポートの活用には、小学校から高等学校卒業まで、その後の進路も含め、国や都道府県教育委員会等が提供する各種資料等を活用しつつ、各地域・各学校における実態に応じ、学校間で連携しながら、柔軟な工夫を行うことが求められ、都道府県教育委員会等、各地域・各学校でカスタマイズすることとされる（文部科学省, 2019b）。また、カスタマイズには以下のような留意点が示されている。

- ① 児童生徒自らが記録し、学期、学年、入学から卒業までの学習を見通し、振り返るとともに、将来への展望を図ることができるものとする。
- ② 学校生活全体及び家庭、地域における学びを含む内容とする。
- ③ 学年、校種を越えて持ち上ることができるものとする。
- ④ 大人（家庭や教師、地域住民等）が対話的に関ることができるものとする。
- ⑤ 詳しい説明がなくても児童生徒が記述できるものとする。
- ⑥ 学級活動・ホームルーム活動で「キャリア・パスポート」を取り扱う場合にはその内容及び実施時数にふさわしいものとする。
- ⑦ カスタマイズする際には、保護者や地域などの多様な意見も参考にすること。
- ⑧ 通常の学級に在籍する発達障害を含む障害のある児童生徒については、児童生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じて指導すること。また、障害のある児童生徒の将来の進路については、幅の広い選択の可能性があることから、指導者が障害者雇用を含めた障害のある人の就労について理解するとともに、必要に応じて、労働部局や福祉部局と連携して取り組むこと。
- ⑨ 特別支援学校においては、個別の支援計画や個別の指導計画等により「キャリア・パスポート」の目的に迫ることができると考えられる場合は、児童生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた取組や適切な内容とすること。

このようにキャリア・パスポートの実施にあたっては、都道府県教育委員会等、各地域・各学校において児童生徒の実態、学校での取り組み、地域の文化を踏まえた柔軟なカスタマイズが求められているが、キャリア・パスポートの有効な活用と様式の作成について、学校現場や教育委員会においては躊躇う様子も見られる。例えば学校現場では、学習指導要領の改訂

により実施が定められたキャリア・パスポートの様式の作成のために、校務分掌や担当者が割り当てられ、文部科学省や都道府県、市町村区教育委員会が作成したキャリア・パスポートの例示に基づいた様式の作成や地域の学校との様式の調整などを行うなどの業務が求められた。キャリア・パスポートの様式を学校独自で作成するのか、中学校区等地域で統一した様式を作成するのかの意思決定が定まらない場合や、地域によっては学校独自のキャリア・パスポートの様式の作成を控えるよう教育委員会より指示されている場合もある。また教員がキャリア・パスポートを実際にどのように児童生徒に指導すればいいのか、どのような意図で実施すればいいのかについて試行錯誤する様子も見られる。児童生徒によっては自己評価が難しい場合や、将来やキャリアへの意識が薄い場合もあるが、文部科学省（2019b）で示されている指導上の留意点と管理では、「児童生徒個々の状況を踏まえ、本人の意思とは反する記録を強いたり、無理な対話に結び付けたりしないように配慮すること」と記されている。しかしながら、キャリア・パスポートがその児童生徒の今後の進路の資料等に用いられる可能性があることから、学校現場では指導上記述させなければならない状況に陥るなど、危惧せざるを得ない事例が多々ある。

今後、わが国の進路指導・キャリア教育のより一層の発展と充実のためには、実際に学校教育で実施されるキャリア・パスポートの実際と活用方法を展望し、様式の在り方や内容の意図と実施にあたっての指導について分析する必要がある。またキャリア・パスポートと進路指導・キャリア教育との関連についても検討する必要がある。

そこで本研究では、2019年度から実施されているキャリア・パスポートの様式や活用方法について、わが国の実践を広く展望するために日本の都道府県教育委員会が例示しているキャリア・パスポートとその実施要項等を参照し、中学校と高等学校における進路指導、及び小学校から高等学校におけるキャリア教育との関連や実際のキャリア教育・進路指導の学校実践について検討することを目的とする。

小学校・中学校・高等学校におけるキャリア・パスポート活用の実例

1. 分析対象

データベースの Google を用いて“キャリアパスポート”“キャリア・パスポート”のいずれか、また“キャリア”、“パスポート”を組み合わせて、2021年10月に検索した。検出されたページで、キャリア・パスポートの様式が示され、かつ参照できる都道府県教育委員会と文部科学省の例示を分析対象とした。

2. 分析方法

キャリア・パスポートについては、学期中に取り組まれる枚数及び実施回数、そして記述項目数、選択項目数、保護者及び教員の記入欄の有無等の内容項目について分析を行った。分析については、児童生徒の学年によってキャリア・パスポートの内容が大きく異なるため、小学校1年生と6年生、中学校3年生、高等学校3年生の4つに分けて行った。

3. 結果

分析の結果、兵庫県、神奈川県、島根県、大分県、和歌山県、沖縄県、香川県、愛知県、岐阜県、滋賀県、福島県、新潟県、青森県、富山県の14県の教育委員会が該当した（兵庫県教育委員会, 2020; 神奈川県教育局, 2021; 島根県教育庁, 2021; 大分県教育委員会, 2020; 和歌山県教育委員会, 2019; 沖縄県立総合教育センター, 2020; 香川県教育委員会, 2020; 愛知県教育委員会, 2020; 岐阜県教育委員会, 2020; 滋賀県総合教育センター, 2020; 福島県教育庁, 2020; 新潟県教育庁, 2019; 青森県教育委員会, 2020; 富山県総合教育センター, 2019）。これら14県の教育委員会の内、文部科学省が示した例示とは異なる独自の様式が示され、かつ本論文への様式の掲載及び事例の報告を承認された兵庫県、神奈川県、大分県、青森県教育委員会が例示するキャリア・パスポートを分析の対象とした。文部科学省の例示を含め、それぞれの都道府県が例示するキャリア・パスポートの実施方法と内容項目について Table 1 に整理した。

Table 1 小学校・中学校・高等学校におけるキャリア・パスポートの様式

学年	検討項目	文部科学省	青森県※1	神奈川県	大分県	兵庫県	
小学 1年生	枚数(枚)	5	4		4	2	
	実施回数(回)	3	4		4	3	
	記述項目数		4		1		
	選択項目数		5		0		
	保護者欄	例示なし	あり(サインのみ)		「大人からのメッセージ」 の欄あり	例示なし	
	教員欄		なし				
	主な質問		・大人になってやりたいもの ・1年生で頑張りたいこと				
	記述項目数	3	3	小学校共通様式のため 例示なし	3	3	
	選択項目数	4	2		5	2	
	保護者欄	あり	あり(サインのみ)		「大人からのメッセージ」 の欄あり	「先生や周りの大人などから」 の欄あり	
	教員欄	あり	なし				
	主な質問	・学校で頑張ったこと ・お家で頑張ったこと					・学校で頑張ったこと ・お家で頑張ったこと
小学 6年生	記述項目数	6	6		4	4	
	選択項目数	4	5		5	2	
	保護者欄	あり	あり		「大人からのメッセージ」 の欄あり	あり	
	教員欄	あり	あり			あり	
	主な質問	・1番楽しかったこと ・できようになったこと		・学校の好きなこと ・どんな2年生になりたいか			
	枚数(枚)	6	4	7	6	2	
	実施回数(回)	4	3	6	4	3	
	記述項目数	10	9	10	5	1	
	選択項目数	0	0	0	0	0	
	保護者欄	あり	あり(サインのみ)		「大人からのメッセージ」 の欄あり	なし	
	教員欄	あり	なし				
	主な質問	・こんな6年生にしたい ・高学年として頑張ること		・自分のよいところ、得意なこと ・学習、生活、お家でこんな自分にしたい			
小学 6年生	記述項目数	7	9	6	4	2	
	選択項目数	7	0	7	7	2(無段階選択方式)	
	保護者欄	あり	あり(サインのみ)		「大人からのメッセージ」 の欄あり	「先生や周りの大人などから」 の欄あり	
	教員欄	あり	なし				
	主な質問	・成長したと感じること ・影響を受けた出来事		・学校で頑張ったこと ・自分の夢や目標に向かって、生活や勉強の仕方 を工夫できたか			
	記述項目数	9	10	6	13	5	
	選択項目数	7	0	0	7	2(無段階選択方式)	
	保護者欄	あり	あり	あり	あり	あり	
	教員欄	あり	あり	あり	なし	あり	
	主な質問	・がんばったことや学年のためにしたこと ・18歳の私へのメッセージ		・中学生で頑張りたいこと ・新しい学校生活に対する期待、不安		・小学校生活で一番印象に残っている出来事 ・中学生に向けた今の気持ち	
	中学 3年生	枚数(枚)	7	4	9	7	2
		実施回数(回)	5	3	6	6	3
記述項目数		12	6	12	12	7	
選択項目数		0	0	0	0	0	
保護者欄		あり	なし	あり	「大人からのメッセージ」 の欄あり	なし	
教員欄		あり	なし	あり			
主な質問		・今の自分 ・私の自己PR	・今の自分を見つめて ・将来の夢や目標				・長所、将来の夢 ・やりたい自分について
記述項目数		9	5	13	9	6	
選択項目数		4	0	4	4	0	
保護者欄		あり	なし	あり	「大人からのメッセージ」 の欄あり	「先生や周りの大人などから」 の欄あり	
教員欄		あり	なし	あり			
主な質問		・新しく発見、気付いたこと ・資格取得などで挑戦しようと思うこと		・物に頑張ったと思うことの内容と理由 ・来学期の自分への応援メッセージ			
高校 3年生	記述項目数	10	9	6	6	8	
	選択項目数	12	0	12	0	3(百分率で表す)	
	保護者欄	あり	あり	あり	「大人からのメッセージ」 の欄あり	あり	
	教員欄	あり	あり	あり		あり	
	主な質問	・小中学校で心に残っていること ・18歳の私に向けて手紙を書こう		・この1年間で心に残ったこと ・これからどんなことに挑戦するか		・これまでの15年間で成長を実感したきっかけの べしかな ・高校生活に向けた今の気持ち	
	枚数(枚)	7	4				
	実施回数(回)	4	0				
	記述項目数	7	6				
	選択項目数	0	0				
	保護者欄	なし	なし				
	教員欄	あり	なし				
	主な質問	・今学期に取り組むこと ・先生からのメッセージを読んで気付いたこと		・今の自分を見つめて ・将来の進路や夢、目標			
記述項目数	7	5					
選択項目数	0	0					
保護者欄	なし	なし					
教員欄	あり	なし					
主な質問	・今学期の振り返り ・先生からのメッセージを読んで気付いたこと		・家族と話順にしたこと ・地域の人たちと関わった出来事				
記述項目数	8	9					
選択項目数	0	0					
保護者欄	なし	あり					
教員欄	あり	あり					
主な質問	・卒業後の自分について、どんな生き方をしたいか ・先生からのメッセージを読んで気付いたこと		・高校2年生と比べて変化したこと ・これからどんなことに挑戦するか				

※1 青森県教育委員会の例示については、様式の利用に明確な時期が定められていないため、学校現場での利用を想定して実施回数を記載した。

キャリア・パスポートと進路指導・キャリア教育との関連

小学1年生では、1年間の様式の枚数及びキャリア・パスポートの記述を実施する回数について、各県の例示が文部科学省の例示されたものと大きくは変わらない傾向が確認できた。神奈川県例示では、小学校において共通の様式が例示されており、学年に合わせて適宜修正して活用されることを想定されているため、小学1年生だけの様式は例示されていなかった（Appendix 1）。各時期の様式の内容については、青森県、大分県例示では、学期初めに実施することが想定される様式が確認できた。小学1年生の場合、ひらがなの学習や文を書く学習が1学期の国語科の学習で設定されているものの、どのようなタイミングで児童にキャリア・パスポートを記述させ始めるかは、検討する必要があるだろう。それとは対照的に、兵庫県例示では学期初めの様式は見られなかった。兵庫県の様式については、他の例示と比較して項目数や様式枚数が少ないことから、学校現場や家庭の負担に配慮していることが分かる（Appendix 2）。それに伴って学期初めの様式が示されていないと考えられる。主な質問については、文部科学省、兵庫県の例示が学校・家庭で頑張ったこと、取り組むことを問う質問であったが、青森県、大分県例示では、学期初めの様式に「大人になってなりたいもの」や「将来の夢」の記述欄が設定されていた。このように早い段階でキャリア意識を持たせる工夫が見られることは、キャリア教育の開始時期を学校で検討する上でも、大きな判断材料となるだろう。

小学6年生では、1年間の様式の枚数及びキャリア・パスポートの記述を実施する回数について、各県の例示が枚数では2枚から7枚、回数では3回から6回と、ばらつきがみられることが確認できた。各時期の様式の内容については、記述項目数において学期末では2項目から9項目、学年末では5項目から13項目とばらつきが見られた。学期末において一番項目数が少なかった兵庫県の例示では、「生活の中で特に取り組んだこと」「これから挑戦したいこと」について記述する欄があった。一番項目数が多かった青森県の例示では、学期末に活用されるとは限定された内容ではなく、「毎日の生活の中で、「自分で決めて取り組んでいる」ことから、「これからも続けていきたい」と思うことは何ですか？」など、生活場面での具体的な振り返りと展望の記述を求める項目が見られた。主な質問については、どの例示においても、中学校との接続を意識した質問が設定されていた。文部科学省や神奈川県の例示では、15歳、18歳への自分のメッセージを記述する欄が設けられていた。このような工夫によって、中学校や高等学校において生徒が小学校の段階でどのようなキャリア意識を持っていたかを把握することができ、進路指導に活用できるであろう。

中学3年生では、1年間の様式の枚数及びキャリア・パスポートの記述を実施する回数について、各県の例示が枚数では2枚から9枚、回数では3回から6回と、ばらつきがみられることが確認できた。枚数及び実施回数にばらつきが見られた要因は、文部科学省と神奈川県、大分県例示では学期の最初と最後の2回に行うことが想定されており、兵庫県の例示では学期の最後で実施されることが想定されていたことが考えられる。青森県については、学期初めと学年末以外は時期が定められておらず、「今と将来の自分を見つめよう！」「たくさんの人とのつながりを考えよう！」「自分の行動を、将来に生かしていこう！」「自分の未来を創り出そう！」という4つの様式で例示され、学校での活動に応じて実施されることが想定される様式であった。神奈川県の例示では、文部科学省例示で示された学習面、生活面、家庭・地域、習い事等と項目を参考にしつつ、それらの達成度を4件法で選択させて「がんばったこと」、「その理由」の記述を求めている（Appendix 3）。選択項目を有効に活用することによって、実施時期での変化を児童が客観的に見取ることができるのは、キャリア発達の観点からも大変意義深い。これについて兵庫県の例示では、百分率による自己評価を用いており、より細やかなアセスメントを児童自身が行うことができると考えられる。中学校では、進路指導の一環としてキャリア・パスポートを活用することが想定されるため、資格取得についての記述を求める項目が見られた。また、小中学校を振り返ることを促す項目や、“どんな自分になりたいか”と将来について問う項目が多く例示で見られた。このような記述を通して、キャリア・パスポートを実施する機会に生徒自身が自分の過去と将来を見渡し、再考することが可能となるであろう。選択項目数については、文部科学省、神奈川県の例示では設定されており、兵庫県の例示では学年末のみ、大分県例示では学期末のみ（Appendix 4）、青森県例示では設定されておらず、記述のみのキャリア・パスポートの様式であった。

高校3年生について、高等学校のキャリア・パスポートの様式が例示されていたのは青森県のみであったが、青森県の例示は中学3年生の様式と項目数やレイアウト自体は大きく変わらなかった（Appendix 5）。また青森県の例示は、ここまで

整理してきた小学校から中学校用のものと同様、明確な実施時期は明示されておらず、中学 3 年生の例示と同様の 4 つの様式で例示されていた。文部科学省の例示では、進路指導・キャリア教育に重点を置いている質問が見られ、中学校の様式から系統的に、文部科学省（2011b; 2011c）で示されている基礎的・汎用的能力の 4 つの能力、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」について 1 年の初めと最後に振り返る項目が設定されていた。この項目を生徒が記述するためには、基礎的・汎用的能力の 4 つの能力を生徒が理解していることが求められ、そのためには学校における進路指導・キャリア教育の充実と徹底が必要となる。高等学校については、今回の分析の対象は文部科学省と青森県の例示のみであったが、都道府県として統一した例示を示している教育委員会は少なく、学校ごとに様式を設定されていることが確認できた。高等学校は全日制や定時制、通信制等で生徒のキャリア意識が異なること、また専門学科ではキャリア形成の在り方自体が異なることから、都道府県教育委員会で例示を示すことは難しいものと思われる。しかし、文部科学省とともに青森県のように高等学校まで例示をされることは、キャリア・パスポートの様式作成の際の学校現場の混乱や負担は解消されるものと考えられる。

総合考察

本研究の分析より、都道府県教育委員会がその地域で実践されてきた進路指導・キャリア教育の内容を踏まえながら、創意工夫してキャリア・パスポートの様式を例示しており、それらはいくつかの特徴を有している現状が明らかとなった。

キャリア・パスポートの特徴として、まず第 1 に項目の系統性の統一が挙げられる。各県ともに項目の内容や様式のレイアウトは小学校から高等学校まで系統性を持たせており、児童生徒自身が自らのキャリア意識の変化に気付き、成長を実感できる工夫がなされていた。青森県や大分県の例示では、小学 1 年生から自分自身の将来や大人になった時のことを問う項目が設定されており、子ども自身のキャリア意識の芽生えのきっかけを仕組むような様式となっていた。キャリア・パスポートは、高等学校まで引き継がれることから、小学校の段階で自分自身がどのようなキャリア意識であったかを後で確認できることは有効であろう。また小学生にとっても、将来を取り巻く状況は不透明なものであるが、数年先を見渡して考察する機会が与えられていることは、キャリア形成だけでなく、日頃の学習面や生活面を見直す上で有益だと考えられる。

第 2 に簡略化の傾向が挙げられる。それが顕著に表れていたのが保護者と教員の記入欄である。文部科学省の例示では、どの校種、学年においても教員と保護者に記述を求める様式となっていた。しかし今回の分析によって、学年末だけ教員が記述するものや保護者にはサインだけを求めるものなど、各県の例示では保護者と教員の負担に配慮した形となっていたことが明らかとなった。また兵庫県の例示では、すべての学年が 2 枚の様式で統一されていた。しかし単なる簡略化ではなく、選択項目では無段階選択方式や百分率が入り入れられ、また学年末では保護者、教員両者の記述欄が設定されているなどの進路指導・キャリア教育上の配慮も見られた。

第 3 に郷土に基づくキャリア意識の促進が挙げられる。その顕著な例が青森県の例示であり、小学校から高等学校まで一貫して郷土に関する項目が設定されていた。このような様式により、郷土への理解が促進され地元への貢献意欲を醸成することができると考えられる。安易なキャリア教育は自治体の人口流出を促進させる側面があることが指摘されている（波多江, 2018）。地方自治体では人口確保や地元産業の活性化が課題であり、キャリア教育に対する教育行政による積極的なカリキュラムマネジメントが行われている。そのような背景がキャリア・パスポートの様式に影響していると考えられる。

以上 3 点を指摘したが、このようなキャリア・パスポートの様式の特徴が、児童生徒のキャリア発達や中学校、高等学校における進路指導、また将来の就労にどのような影響を及ぼすのかの検討は今後の課題である。本研究は文部科学省と 4 つの県のみ分析であり、僅かな事例の分析・考察であった。文部科学省は、教育委員会や各地域・各学校においてキャリア・パスポートの様式のカスタマイズを求めているが、わが国として系統的な進路指導・キャリア教育をより促進させ、各地域における教育・指導の質を確実に担保するためには、全国で活用されているキャリア・パスポートの様式や質問項目、系統性、一貫性に対する定期的なモニタリング調査やメタ分析を国が主体となっていく必要がある。その実行にはキャリア教育・進路指導に関する継続的な議論が求められる。変容する社会の中で学校教育に対して何を求めるのか、現場教員にどのような指導を求めるのか、その指針を文部科学省や教育委員会が主体となって明確に示していくことが重要であろう。

1 年度はじめ、学期はじめ

新しい学年／〇学期がはじまりました

年 組 名 前

月 日

キャリア・パスポート

〇「今のわたし」について考えてみましょう。自分について考えよう！

自分のよいところ・得意なこと

好きなこと・今、夢中になっていること

しょうるの夢／どんな人になりたい？

〇こんな自分になりたい！！ 目標を決めよう！

学習面

なりたい自分になるためにすること

生活面（そうじ、係活動など）

なりたい自分になるためにすること

お家

なりたい自分になるためにすること

なりたい自分をイメージすることができましたか？

みんな（学級）のためにがんばりたいこと

先生から

家の人などから

4 学期終わり、年度終わり

〇学期／〇年生をふり振り返りましょう

年 組 名 前

月 日

キャリア・パスポート

〇なりたい自分にどれだけ近づけたか、ふり振り返りましょう。

学習面

生活面

家庭や地域

できたところまで色をぬりましょう。

〇どのくらいできましたか？

①友達や家の人の話を聞くとき、その人の考えや気持ちをつかおうとすること

②自分の考えや気持ちを、相手にわかりやすく伝えようと思えること

③委員会、係、当番活動などで、自分から仕事を見つけたり、役割分担したりしながら、力を合わせて行動すること

④好きでないことや苦手なことでも、自分から進んで取り組むこと

⑤調べたいことや知りたいことがあるとき、自分から進んで資料や情報を集めたり、誰かに質問したりすること

⑥何かをするとき、計画を立ててすすめたり、途中でやり方に工夫したり、見直ししたりすること

⑦自分の夢や目標に向かって、生活や勉強の仕方を工夫すること

ふり振り返りメーター

	あまりできなかった	すこしできた	できた	よくできた
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				
⑦				

一番楽しかったことやがんばったこと

〇学期／〇年生になったらやってみたいこと

なりたい自分に近づけましたか？

自分へのメッセージ

先生から

家の人などから

Appendix 1 かながわ版キャリア・パスポート（小学校用，一部抜粋）（神奈川県教育局，2021）


1 ねんせい

（ ）くみ なまえ：（ ）


かいだひ： ねん がつ にち

1 1 ねんの はんぶんが おわって がくしゅうや せいかつで がんばったぶんだけ いろを めりましょう。

(がくしゅう)



(せいかつ)



がくしゅうで とりくんだこと

せいかつで とりくんだこと


これから ちょうせんしたいこと

せんせいや まわりの おとななどから


2 1 ねんかんを ふりかえって

かいだひ： 年 月 日

(がくしゅう)



(せいかつ)



がくしゅうで とりくんだこと

せいかつで とりくんだこと

3 この1 ねんかん で うれしかったことや たのしかったこと

4 こんな 2 年生に なりたい

せんせいから

まわりの おとななどから

Appendix 2 兵庫県版キャリア・パスポート（小学校1 年生用，一部抜粋）（兵庫県教育委員会，2021）

6 年度はじめ、学期はじめ

新しい学年／○学期のスタートです

年 組 名 前

月 日

キャリア・パスポート

○今の自分を見つめて

今の自分（自分の好きなこと・もの、得意なこと・もの、頑張っていることなど）

私の自己 PR(自分のよいところ)

こんな大人になりたい（将来の夢など）

そのために、つきたい力

○なりたい自分になるために身に付けたいこと（目標）と、そのために取り組みたいこと

学習面の目標	➡	そのために
生活面の目標	➡	そのために
家庭・地域での目標	➡	そのために
その他（習い事・資格取得など）の目標	➡	そのために

なりたい自分をイメージすることができましたか？

先生からのメッセージ

保護者などからのメッセージ

9 学期末、学年末の振り返り

○学期／○年生を振り返りましょう

年 組 名 前

月 日

キャリア・パスポート

○ 今学期／1年間を振り返って、目標を達成できたか、今の気持ちにあてはまる口にレ点をつけ、特に頑張った（成長できた）と思うことと、その具体的な内容や理由を振り返りましょう。

（学習面）

<input type="checkbox"/> 身に付いた <input type="checkbox"/> やや身に付いた <input type="checkbox"/> あまり身に付かなかった <input type="checkbox"/> 身に付かなかった	頑張ったこと ➡	理由
---	----------	----

（生活面）

<input type="checkbox"/> 身に付いた <input type="checkbox"/> やや身に付いた <input type="checkbox"/> あまり身に付かなかった <input type="checkbox"/> 身に付かなかった	頑張ったこと ➡	理由
---	----------	----

（家庭や地域で）

<input type="checkbox"/> 身に付いた <input type="checkbox"/> やや身に付いた <input type="checkbox"/> あまり身に付かなかった <input type="checkbox"/> 身に付かなかった	頑張ったこと ➡	理由
---	----------	----

（その他（習い事、資格取得など））

<input type="checkbox"/> 身に付いた <input type="checkbox"/> やや身に付いた <input type="checkbox"/> あまり身に付かなかった <input type="checkbox"/> 身に付かなかった	頑張ったこと ➡	理由
---	----------	----

○ なりたい自分になるために身に付いたと思う力と、その具体的な内容や理由

身に付いたと思う力	理由
-----------	----

○ ○学期／○年生になる自分への応援メッセージ

自分への応援メッセージ	卒業するときに、どんな自分になりたいか
-------------	---------------------

先生からのメッセージ

保護者などからのメッセージ

メッセージから気付いたこと、考えたこと

Appendix 3 かながわ版キャリアパスポート（中学校用、一部抜粋）（神奈川県教育局, 2021）

中学校3年生1学期を振り返ろう

記入日 月 日 曜日

○1学期を振り返って

目標とそれのための取組について、自分の気持ちに一歩近いところに○を付けよう	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
学習面で 身に付けようと思ったことが身に付いたと思う				
生活面で 身に付けようと思ったことが身に付いたと思う				
家庭や地域で 身に付けようと思ったことが身に付いたと思う				
その他（習い事・資格取得など）で 身に付けようと思ったことが身に付いたと思う				

○各項目の振り返りと、今後、挑戦・行動しようと思うこと

学習面で	今後は
生活面で	今後は
家庭や地域で	今後は
その他（習い事・資格取得など）で	今後は

1学期を振り返って、新しく発見したこと、気付いたこと

【大人からのメッセージ】

卒業していく私

記入日 月 日 曜日

中学校生活を振り返って、今、自分が考えていることを書こう。

○ 入学したころと比べて、成長したと思うことを書こう

○ 3年間で、心に残ったことや感動したことを書こう

○ 学校生活で、うまいゆなかつたことや、思った通りにならなかつたことを書こう。また、その時どんな気持ちがありましたか

○ 18歳になった時、どんな自分になりたいかを書こう

○ 今後、挑戦したいことを書こう

Appendix 4 大分県版キャリア・パスポート（中学3年生用、一部抜粋）（大分県教育委員会, 2020）

□今と将来の自分を見つめよう！【自己を見つける力】

1 今の自分を見つめて書こう。

今、夢中になっていること・もの

自分のプラス面を見つけてみましょう。
(例：何にでも首を突っ込む(マイナス) → 何にでも積極的(プラス))

2 卒業後の進路希望や夢、目標を書こう。

(やってみたいこと、就きたい仕事、生き方など)

3 その進路や夢、目標をもった理由を書こう。

4 進路や夢、目標を実現するために、今からやらなければならないことを具体的に書こう。

発見 ふるさと

青森県の中から、好きな場所・人・ものを書こう。

高3-1

□人とのつながりを考えよう！【つながる力】

1 家族と、最近話題にしたことで、心に残っていることを書こう。

2 (学校の)友人と話題にしたことで、心に残っていることを書こう。

誰と

話題になった出来事

3 最近、地域の人たちと関わった出来事を書こう。

地域の人と関わった具体的内容

4 自分の将来に結びつきそうな世の中の出来事と、そのことをとおして思ったことを書こう。

出来事

思ったこと

1～4の出来事が、将来、どのように役に立つか考えて書いてみよう。

高3-2

Appendix 5 青森県教育委員会キャリア・パスポート（高等学校用、一部抜粋）（青森県教育委員会, 2020）

引用文献

愛知県教育委員会 (2020). 愛知県キャリア教育ノート 夢を見つけ夢をかなえる航海ノート

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/tokubetsushienkyoiku/0000000001.html> (閲覧日 2021 年 11 月 12 日)

青森県教育委員会 (2020). キャリア・パスポート

https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kyoiku/e-gakyo/kyaria_pasupoto.html (閲覧日 2021 年 11 月 12 日)

福島県教育庁 (2020). キャリア教育について

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/70056a/kyaria.html> (閲覧日 2021 年 11 月 12 日)

岐阜県教育委員会 (2020). 岐阜県版キャリア・パスポート

<https://www.pref.gifu.lg.jp/site/edu/61875.html> (閲覧日 2021 年 11 月 12 日)

波多江俊介 (2018). 児童・生徒のキャリア教育及び進路指導に資する教育行政によるカリキュラムマネジメント事例の分析.

熊本学園大学論集 総合科学 23(1), 21-32.

兵庫県教育委員会 (2020). キャリア教育の推進

<http://www.hyogo-c.ed.jp/~gimu-bo/career/career.htm> (閲覧日 2021 年 11 月 12 日)

香川県教育委員会 (2020). さぬきつ子チャレンジノート

<https://www.pref.kagawa.lg.jp/kenkyoui/gimukyoku/gakko/career/challnote.html> (閲覧日 2021 年 11 月 12 日)

神奈川県教育局 (2021). かながわ版キャリア・パスポートについて

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cnt/f537614/kyariapasu.html> (閲覧日 2021 年 11 月 12 日)

文部科学省 (1999). 初等中等教育と高等教育との接続の改善について(答申)

- 文部科学省 (2004). キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書～児童生徒一人一人の勤労観，職業観を育てるために～の骨子
- 文部科学省 (2005). 中学校職場体験ガイド
- 文部科学省 (2011a). 今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)
- 文部科学省 (2011b). 中学校キャリア教育の手引き
- 文部科学省 (2011c). 高等学校キャリア教育の手引き
- 文部科学省 (2018a). 小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総則
- 文部科学省 (2018b). 中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総則
- 文部科学省 (2018c). 高等学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総則
- 文部科学省 (2018d). 小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別活動編
- 文部科学省 (2018e). 中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別活動編
- 文部科学省 (2018f). 高等学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別活動編
- 文部科学省 (2019a). 「キャリア・パスポート」例示資料等について
- 文部科学省 (2019b). 「キャリア・パスポート」の様式例と指導上の留意点
- 長田徹 (2018). 新たな学習指導要領におけるキャリア教育 文部科学省初等中央教育局教育課程課研修資料
- 新潟県教育庁 (2019). キャリアパスポート
<https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/gimukyoiku/careerpassport.html>（閲覧日 2021 年 11 月 12 日）
- 西村陽一 (2015). 高等学校におけるキャリア教育・進路指導の現状と課題ーキャリア教育の充実を目指してー崇城大学紀要 40, 153-162.
- 大分県教育委員会 (2020). 未来をえがくキャリア・ノート！
<https://www.pref.oita.jp/site/gakkokyoiku/kyarinote.html>（閲覧日 2021 年 11 月 12 日）
- 沖縄県立総合教育センター (2020). 沖縄県版「キャリア・パスポート」
<http://www.edu-c.open.ed.jp/career-passport.html>（閲覧日 2021 年 11 月 12 日）
- 滋賀県総合教育センター (2020). 『キャリア・パスポート』県共通シート キャリアノート『夢の手帖』
<https://www.shiga-ec.ed.jp/www/contents/1460271742345/index.html>（閲覧日 2021 年 11 月 12 日）
- 島根県教育庁 (2021). キャリア・パスポート しまねの教育情報 Web
<http://eio-shimane.jp/document/kyaria/688>（閲覧日 2021 年 11 月 12 日）
- 富山県総合教育センター (2019). 富山県キャリア教育資料「キャリア・パスポートのすすめ」
<http://center.tym.ed.jp/info/1911-01>（閲覧日 2021 年 11 月 12 日）
- 和歌山県教育委員会 (2019). 「キャリア・パスポート」
<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/501100/kyaria/CP.html>（閲覧日 2021 年 11 月 12 日）

謝辞

本稿を執筆するにあたりご助言をいただきました広島大学の栗原慎二先生，本研究にご協力をいただきました都道府県教育委員会の担当者の皆様に深く感謝申し上げます。